

盲導犬の受け入れ拒否事例 盲導犬協会が HP で公開

日本盲導犬協会（井上幸彦理事長）は 4 月 27 日、盲導犬の受け入れ拒否への対応事例集をホームページで公開した。2005 年 2 月から今年 3 月末までに発生した事例を飲食店、宿泊施設など場所別に分類。拒否された後にどう対応したかをまとめた。今年 4 月 1 日施行の障害者差別解消法が規定する合理的配慮の具体例としても参考になりそうだ。

掲載したのは 12 の事例。同協会から盲導犬を貸与された使用者約 220 人が同伴を拒まれ、同協会の職員が対応した 257 件から選んだ。「保健所の指導で犬は入店できない」という飲食店でよくある事例を載せた。事例は今後更新する。

257 件のうち約 7 割は、協会職員が 1 回電話したり訪問したりして身体障害者補助犬法を説明した結

果、受け入れに至った。全国展開する店舗などでは、従業員一人ひとりにまで同法の内容や本社の方針が伝わっていない例が多いという。

同協会は同日、横浜市内に住む盲導犬使用者が、百貨店「そごう横浜店」で買い物をする様子を報道陣に公開。盲導犬使用者が買い物や食事を楽しめる店が増えるよう求めていく考えをアピールした。

補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）を同伴する障害者の受け入れ拒否を禁じ、良質な補助犬を育成することを目的とした身体障害者補助犬法は、2002 年 5 月に成立。その後、補助犬の稼働頭数は増えたが、同伴拒否はなくなっていない。

（福祉新聞・第 2762 号 2016 年 5 月 16 日）